

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201146		
法人名	社会福祉法人 鶴亀会		
事業所名	グループホーム龍ヶ岳		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町大道158番地		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4373201146&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方の、その人らしい尊厳ある姿を大切にしています。くつろげる場所の確保と、混乱せずに済む心遣いをしています。またその上で、月にお一人ずつ生活改善月間としてスタッフ全員で取り組み、処遇向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームから一歩外に出ると、海からの潮風が心地良く、こじんまりと親しみやすいホーム。勤務年数の長い職員も多く、安定した入居者と家族との交流が保持されている。個別記録には利用者の日々の状況が詳細に記載され、介護の状況が職員のみならず、家族にも時系列で判断できるように取り組まれている。食事は「ここは美味しい。毎日楽しみで何も残さない」と入居者が誇らしげに自慢し、居室とリビングへ行ったり来たり、「外へ空気吸いに行ってきます」と玄関から出掛けるなど、我が家での暮らしと同じような生活リズムが保持されている。母体法人の特別養護老人ホームは現在改築中だが、事業所との連携で行事も内容の濃いものになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	設立9年目の事業所。「理念」は設立された当時の気持ちや意味を、時折再確認することも良いと思われます。「その人らしく」の解釈は、利用者の現状を全職員が判断し、利用者との気持ちを一つに「我儘が許されるホーム」としての支援を、毎日の生活に結びつけることが大切とされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭には参加をしていないが、獅子舞や子供神輿の訪問をお願いし、来ていただいている。	事業所の立地条件から、地域との日常的な繋がりを維持する事はかなり困難と思われるが、地域の祭りに子ども神楽や獅子舞の訪問を依頼するなど、外出が困難な利用者の増加に伴う対応が、母体法人と共に考えられ、職員が和太鼓演奏で祭りに参加するなど、「ダメ」ではなく「変わりになる」係かわりを考える工夫がみられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の成果を地域の方に伝える場は、今のところ運営推進委員会の場以外はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告と共に、参加メンバーから質問・意見・要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。	行政・消防署・地区住民代表・家族代表が事業所に加えて出席し、忌憚の無い意見交換会を実施している。ただ、利用者家族の出席は、住まいが遠隔地であったり、高齢であったり、参加が少なくなっているのが現状。他の出席者は家族からの意見を聴く機会が少なくなっているようです。	会議のメンバーが男性のみとなっていることが気になります。地域状況に詳しい婦人会や老人会から副会長や女性委員が参加されると更に良いと思われます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の方の、運営推進会議以外の行き来をする機会が少ない。	行政との連携は、上天草市の管轄が4町6事業所と多くなり、運営推進会議参加が協力の現状とみられます。行政へは事業所の実情や取り組みを伝えるだけで、質向上や協力体制の構築までは見られないことから、一事業所としてでなく、地域のグループホーム全体で協力し、行政への情報や要望の発信を行い、協力関係の強化を図ることも必要かと思われます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方が外出されそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒にいて行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	事務所、リビング、台所、何処に居ても時計が職員の目に届く配置になっているのは、利用者の生活リズムを時間で把握し、事前に行動を予測して誘導したり付き添うことができるようにという配慮。外出に関しても、タイミングを察知し「行って来ます」と付き添ったり、「いってらっしゃい」と、見送る姿が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明を行っている。重度化や看取りについての対応、利用料金については詳しい説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本意の運営を心がけている。	入居時に行なう家族への説明を最も重視し、それまでの家庭生活の様子や、習慣・好み・家族として望むことを聞き取って対応。入所後は本人の要望を第一に、何時でも・何でも言える関係作りを大切にしている。「洗濯物はそのまま居室に入れて欲しい」の要望に対応したら、几帳面な整理が可能であることが判明し、新しい発見となる等、成果を上げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例の研修会の他、随時話し合える機会を設けている。	職員は入れ替わりが少なく、職員間の意思疎通と管理職への意見が言い易い環境となっており、「職員が楽しく働けなければ、利用者も楽しくない」と、業務日誌の活用や「気付きを行動に」業務の反映がみられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修を行い、外部研修にも習熟度の段階に応じて積極的に参加し、研修報告の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用についての相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげる等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側、という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう、場面作りや声掛けをしており、入居の方から「お互い様」の言葉があっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの情報共有に努め、本人様と一緒に支えるために支援していることを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの商店や美容院に行き、知人の方と会話ができるよう、出かけていく機会を作っている。	高齢化が進み、外出できる入居者が少なくなり、家族も高齢化し、遠隔地に住む家族の訪問も、間隔が開くようになって関係継続が難しくなっている。そこで、頻度は少ないが、地域の美容院や駄菓子への訪問を実施し、昔馴染みの人と会話ができる機会を作ったり、ハガキを出したり、電話を掛けるなど、家族や馴染みの人との繋がりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を交換し、全ての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、家族様からの相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声をかけ、把握に努めている。希望意向があった場合はすぐに記録するようにしている。	「支援する」ではなく「共に過す」をモットーに、日々の係わりが維持されており、日中のリビングでの様子や食事の状況も、夫々利用者本位の動きに対する支援や、配膳・食事形態・相性による座席決めなど、丁寧な配慮が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、ご本人や家族の方から聴き取りを行っている。また、ご本人から聞いたことをすぐに記録するノートがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解するとともに、出来ないことより出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で意見を聞き、反映されるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換を行っている。	利用者毎のファイルには、ホーム入所以前の状況や家族の要望・意見を詳細に聞き取って記録されている。毎日の状況も本人の言葉をそのまま記録し、言葉の背景を皆で考える機会としてアセスメントを行ない、介護計画に反映させている。又、なぜ記録が必要で大切なのか研修し、ケアの見直しにも活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や、ご本人の言葉を記録しており、それを職員が確認できるようにしており、勤務前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地区区長、消防指導隊長と意見交換をする機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	連携病院の、内科から歯科医院まで、12科目の医師名と診察曜日・時間を一覧表にして事務所内に掲示しており、入居者に合わせた診療日の調整が実施されている。家族付き添いが出来ない際は職員が同行支援を行ない、母体法人施設から看護師が毎日バイタルチェックに訪問するなど、体調管理に注意が払われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない場合でも、電話連絡により指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援に関する情報を医療機関に提供し、三日に一度は職員が見舞うようにしている。また、家族様とも回復状況等、情報交換をしながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応指針を定め、入居時に意思確認書を記入していただいている。	最近も看取りを実施。ホーム入居時に説明しているが、「最後までこの部屋で…」という終末期を迎えてからの希望対応にも、母体法人の協力が力となり、家族の付き添いや出入りなど、状況変化や他の入居者の見守りなど、大きな学びとなったと思われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応マニュアルをスタッフの部屋の壁に貼り、常にイメージできるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	母体法人との合同で消火器の使い方などの訓練は定例で実施されているが、火災・自然災害等、ホーム外への避難が難しい立地・環境にあり、利用者を何処に・どうやって避難させるか、再度の確認があると良いと考えます。利用者は、誘導より背負う方が安全という場合もあり、背負いベルトなどの準備や、具体的な練習を実施することも大切と思われま	事業所は地域の大切な社会資源。地域に支えてもらうことを前提として、協力を仰ぐ活動を更に展開されることが求められます。自力歩行者が少ないので、イザという場合の訓練に入居者も参加し、車椅子の移動距離、マンツーマンでの背負っての行動など、具体的な訓練と体験が重要と考えます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まず本人様の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	居室の入り口はドアとカーテンを二重に使用。閉じ簾る人を作らず、鍵が必要になる状態も作らないことを申し合わせ、居室での対応やリビングでの時の過ごし方など、九人九様の異なる対応が見られた。利用者間の相性や職員との関係も、個別の誇りや人格を尊重した配慮が加未されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況に合わせ、本人様が答えやすく選びやすいような働きかけをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人様の気持ちを尊重して、出来るだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、片付けと一緒に進んで行っている。	以前は食事の準備や片付けに加わっていた人も、現在は食事だけを楽しむ入居者が増えており、食分量・形態・配膳順序等、それぞれの状況に合わせて工夫されていた。「毎日の食事がおいしく、楽しい」と、殆ど全員が完食。それでも体重減少が見られる入居者には栄養補助食品を利用するなどの配慮がみられた。誕生日・季節の料理と献立に気配りし、鍋料理も予定されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も個々に合わせて確認するようにし、ご本人の好きな物や食べやすい物を出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回、うがいを実施していただいております。夕食後は歯磨きを本人の能力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パッド類も本人様に合わせて検討している。	介護度の高い入居者が多いが、一人ひとりの自立と気持ちを考え、トイレでの排泄を大切にしている。昼間のオムツ利用者は一人しか居らず、個別リズムを把握し、早めのトイレ誘導がみられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしている。また、腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望時に入浴していただいております。入浴を拒まれる方に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって気分良く入浴されるよう配慮している。	入居者にも介助者を選ぶ自由が与えられ、希望に沿う対応が尊重されている。基本的には週二回の入浴となっているが、時間や曜日を決めず、利用者の気分に合わせて対応が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握できるよう、最新薬情報としてファイルしている。また、法人全体での薬についてのテストも時々あっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩だけでなく、その人の馴染みの店や場所へ出掛けている。	日常的な外出は入居者の介護度アップに伴い、誘い掛けても「しんどいからいい」と、外出する気になってもらう事が難しくなった。連れ立っての買い物やドライブもマンツーマン対応で、可能な人だけでも・・・と、楽しみを付加しながら実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所が管理している人でも、外出時のお金は自分で払っていただけるように、お金を手渡すなど工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月近況報告を行い、入居者本人にお願いして書いていただくこともある。また、手紙や絵手紙等も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆず油や菖蒲湯、鍋料理や山菜御膳会など、五感刺激と季節感を感じていただくことを意識した工夫をしている。	広すぎず、狭すぎず、親しみやすいホームの作りに、庶民的なインテリアと椅子やテーブルが配置され、食後はテレビ前のソファでゆっくり寛ぐ姿が「我が家風」。なんとなく、それぞれに居場所が決まっており、ごく自然に入所者間の相性が読み取られた共用空間の利用状況になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の人の気配を感じながらも独りで過ごせる居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みの物等を、生活スタイルに合わせて用意している。	居室の入り口にはそれぞれのフルネームで表札が掛り、ドアを閉めない人はピンクのカーテンで目隠しし、プライバシーを保護している。室内は箆笥・テレビなど家具の持ち込みのある方、サツパリとベッドだけの方、それぞれの生活スタイルに合わせた対応になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様にとって「何が分りにくいのか」「どうしたら本人様の力でやっていただけるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。		